

2020年度第2回 知床世界自然遺産地域
適正利用・エコツーリズム検討会議
【議事要点版】

日時：2021（令和3）年2月1日（月）14：00～16：15

場所：小清水町多目的研修集会施設（愛ホール）

【注釈】

「当会議」：適正利用・エコツーリズム検討会議

「WG」：適正利用・エコツーリズムワーキンググループ

「ML」：適正利用・エコツーリズムワーキンググループメーリングリスト

1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況

- 各部会の進捗状況を確認。新規提案はなし。

2. 実施部会等からの報告

（1）赤岩地区昆布ツアー部会

- 2021年度事業の実施日程の変更案（従来2日間の行程を1日間に短縮）について説明。H29年度に試行開始したツアーの5年間の総括と今後の事業の方向性については、2021年度第1回の当会議において提案する。

3. 個別部会等からの報告

（1）厳冬期の知床五湖エコツアー事業

- 2020年度は、コロナ禍の影響に鑑みて例年より実施期間を15日間短縮して継続実施する。収入の不足分は繰越金を活用する。
- ツアーの運用方法を見直し、利用者・引率者双方の利便の観点から午後の出発時間を30分繰り下げ、13：30～17：00とすることを提案。日没時間を考慮することを確認し承認。

（2）知床五湖地区における取組

- 利用調整地区制度導入時にコースの変更や付け替えになった箇所植生の回復状況について、次の検討会議で報告する。
- コロナ禍による利用量の低下がヒグマの行動変化を招く可能性に留意するべき。

（3）カムイワッカ地区における取組

- 湯の滝の再利用の検討については、専門家による視察結果の概要、現地の法的規制や保護区域の情報を含む資料をMLで共有する。
- 湯の滝の再利用の試行事業は、駐車場・交通問題の対策が重要となることから、交通アクセス・シャトルバス運行の取組みとの連携が重要であることを認識する。
- これらの認識を踏まえ、今年度3月に開催予定のカムイワッカ部会で最終的な事業案を協議し、関係者の合意を得ることを前提に3年間の試行事業を認める。ただし、正式な承認は、利用範囲等事業の詳細をML等で確認した後とする。

（4）ウトロ海域における取組

- 海鳥ウィーク等の取組みはコロナ禍でほぼ中止となったが、地域の子どものための事業等を実施した旨を報告。ハンドブックの改訂にも取り組んでおり、次回会議で報告予定。

4. その他

（1）知床国立公園の利用のあり方について

- 第1回会議で取り上げた「ゾーニングイメージ（案）」の取扱いや今後の進め方について

て報告。イメージ案は提案制度により当会議で議論し個別に整理していく。

- その実績を踏まえて必要に応じ各種計画やルールも見直していくが、どのように進めるか（公園管理計画、遺産管理計画、その他の合意いずれに反映するか等）、自然公園法の見直し状況等も踏まえ、次回の当会議までに整理。なお、重大事項は適宜科学委員会での報告・議論が必要となる。
- 新たな利用のあり方に関する検討については WG での議論も必要。

（2）2020 年度知床国立公園利用状況調査結果（暫定版）について

（3）ヒグマ対策連絡会議について

（4）アドベンチャーツーリズムの推進と世界自然遺産を活用したプロモーションの進捗状況について

- 以上の3点については、時間の制約から ML での補足説明を以って代替する。